

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部後期課程 3年

参加プログラム: IARU GSP UCB2 派遣先大学: University of California, Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 7.その他(未定)

派遣先大学の概要

Berkeley, Californiaにある名門公立大学です。(通称: Cal)

Palo Altoに位置するStanfordほどではないですが(むしろStanfordは日差しありすぎ)、素晴らしい気候に恵まれており、設備も充実しているので学ぶ環境としては申し分ないと思います。

ちなみにStanfordとBerkeleyはライバル関係にあるので、お互いをこき下ろす様々な面白い歌や商品があります。笑 東大にもあるのでしょうか。知りません。

見て分かるように、あまり書くべきことが分かりません。笑

参加した動機

1. 専門性深化の追求と新たな学問を学ぶことを同時に出来るプログラムであったから。
2. 多様なバックグラウンドを持つ優秀な学生と共に学び、自分の立ち位置を確認したかったから。
3. 交換留学に向けて、英語の重負荷の授業に慣れたかったから。
というのが真面目な動機。

4. 交換留学に行く東海岸との違いを見てみたかったから。
5. 奨学金がそこそこ出て、安く海外に行けるなら行くしかないと思ったから。
というのがちょっと不真面目な動機。

言わずもがな、5番が決め手です。笑

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

行きたいのであれば指定されるまま、applyすればいいと思います。ここに関しては特にアドバイスはないです。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F1ビザを所定の手続き通り、米国大使館で取得。

あまり参考にならないかもしれませんが、そのままアメリカで留学することを考えている人用に…

私はJ1ビザも交換留学用に取得していたのですが、visa status changeのために国外に1回出なくてはなりませんでした。ビザ2枚持って、そのまま移行するのは無理なようです。(私は1泊バンクーバー小旅行に行きました。)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

GSPに関しては特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

そのまま1年間の交換留学に突入するため、1年分の留学保険を日本で購入しました。

(基本的に保険は行って、帰国するまでなので、帰国しない分、GSPだけのために購入することができなかった)

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学届けを教務課に出した他は、特に所属学部での手続きはなし。授業に関しては、あらかじめ教員に伝え、前倒しで試験を受けたり、レポートのメール提出を認めて頂いたり。結局UCBの課題やりながら、東大のレポートもやる羽目になりました。笑 IARUとAIKOMを併願するなら、学期中からコツコツやっとなないと私のように悲惨なことになりますので、来年以降の方はご注意ください。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

語学学習的な準備は特になし。

強いて言うなら所属コースがそもそもリーディング英語だったりするので、それに慣れていたのは良かった。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

基本的に買えるからいいですが、ジムが格安で利用出来るため、運動したい人は運動着、運動靴は持参すべき。

また、Bay Areaは夏といえども、本当に寒かったりするので、暖かい服装は持参した方がよいかと。

あとは、共同生活するなら当たり前ですが、タコ足は持っていくべきです。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

IAS 150 Media and Global Protest Movements(単位認定は検討中)

IAS 198 Directed Group Studies(同上)

* 便宜上 2 つになっていますが、実際はまとまった 1 つの授業(教授曰くビザの関係上)。

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

授業は International Studies と Media Workshop の複合構成でそれぞれ別途リーディングあり。

予習に関しては、とにかくリーディングをこなして、授業ではディスカッション出来る用にしておく。

このコースに関して極めて特徴的なのは、中間課題として一人一人がウェブサイトを作り、期末課題としてグループのウェブサイトを作ること。コンテンツは International Studies の部分の理論を使った、protest movements の分析です。新しいことに挑戦したい人にもオススメ。

④学習・研究面でのアドバイス

とにかくリーディングをこなして、ディスカッションに参加すべき。吸収率が違います。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

ウェブに載せるコンテンツもアカデミックライティングということでキチツとした formal な英語を書かなければいけなかったのですが、これに関しては自分ではどうしようもなかったのが、期末プロジェクトに当たってグループの仲間に proofread してもらいました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

UCB に指定された国際学生寮(International House)に宿泊。

相部屋はまさかの同じプログラムの東大生でしたが、日本人で固まる、というようなことはなく、お互い色々忙しかったり遊んだりしていたので授業外でルームメイトと顔を会わせること自体まず少なかったです。笑

私は課題をやっていたので、あまり参加しませんでした。夜は寮の中でも外でも結構 party が行われていたみたいです。笑

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候:酷暑の日本とは大違いで、昼間は 20 度前後、日差しがなければ夏服では寒いくらいでした。

大学周辺:色々な飲食店があり、学生街という感じ。

交通機関:BART という地下鉄がありますが、学生証で AC Transit のバスであれば無料だったので、しばしばサンフランシスコまでバスで行っていました。

食事:I-House の食堂がビュッフェ形式で 60 食分宿泊にっついているので大体は、食堂で。他にも外食するところは沢山あるので、柔軟に色んなところで食べていました。

お金:クレジットカード使えばいい上、学生証に予めお金が 60 ドルほど入っているの、さほどキャッシュは要りません。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安に関しては、ホームレスがいたくらいで、とてもよかったと思います。

しかし当然ながら女の子であれば、一人では夜出歩かないとか、常識は働かせましょう。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費:(片道)10 万弱

授業費(+administration fee など):\$2760

教科書代:\$55(Reader)+\$35(Textbook)の合計\$90 くらい

宿泊費:\$2255(+\$500 deposit)

食費、交通費、娯楽費:記録してない上、人によりけりだと思うので何とも言えません。

必須分の概算で約\$6000 ほどでしょうか。

6 週間といえども、どう考えても安くはないです、奨学金なければ行きませんでした。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

Friends of Todai \$3000(ここから 14%税引きはされました)

JASSO 16 万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

東大の課題もやらなくてはならなかったのですが、それでも色々楽しみました。

Sonoma にワイナリー巡りに行ったり、LA まで夜行行き、夜行帰りで弾丸旅行したり、Yosemite 行ったり、Lake Tahoe に行ったり、Stanford, Silicon Valley に行ったり。レンタカーは UCB の学生だと安くなるので積極的に利用すべし。

また、ジムやプールなど、学校のスポーツ施設も期間中\$10 で利用出来るので、使いたい人はどうぞ。友人とプールサイドで横になって日焼けしながらお昼寝したり、リーディングしたりもしていました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

少人数のクラスなので、先生に言えば大体のことは対応してくれると思います。

後期教養なので、少人数には割と慣れています。この先生の先生は多分もっと 1on1 basis の関係で仲良くなれます。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は沢山あるのですが、あまり利用せず。Wifi は基本学内ならどこでも通じます。

他のことは既にここまでで書いたもので、そちら参照。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学の動機にも示したように、交換留学に向けて、というのが一つの位置づけでした。

その意味でまず非常に多くを学び、得たように思います。

学業面ではアウトプットの仕方が非常に重要だと改めて学びました。

共に課題として課されたウェブサイト構築やブログの書き方はもちろん、最終プレゼン、普段の授業での発言など、いかに自分の考えを整理し、発信するかというようなことの手がかりを得たように思います。特に議論を回す発言というものについて考えさせられました。

また、最終プレゼンは本当にいい反省材料になったのと同時に、とても記憶に残るエピソードを伴うものでした。というのも、ウェブサイトのコンテンツを直前まで詰めることに必死で、プレゼンの準備をほぼしないで臨んだ結果、自分としては酷い出来に終わってしまったのです。プレゼンの時間の大半をチームで任されていただけにとても落ち込みました。その後、教授と帰り道を共にし、自分の反省を伝えたところ、まず、頭が真っ白になって何も言えなくなったとかではないし、そこまで悪くなかったわよと励ましてもらったのですが、続いて彼女自身、教職についたばかりの頃、言うこと全てを書き出して、授業にかけける時間の倍以上の時間練習をしていたことを教えてくれました。最初から出来る訳じゃないし、向き不向きはある。でも、練習すれば必ず良くなる。そんな当たり前のことですが、6週間 intensive に教わった教授から、分かってるから。みたいに言われたことで、次のステップが見えてきたと思っています。

そんなことを言っている、なんだかんだ、得て一番大きかったのは友人です。

プログラムの初日、初顔合わせをしたときに、教授の一人が、「これからの6週間で家族みたいになるから。去年の子達はこの夏も一緒に旅行したりしてるくらいだよ」と言われました。内心、「まあ、代によってはそうかもねー」と本気にはしていませんでした。でも、寮を check-out する最終日、本当に別れが辛かったです。今まで色々な海外のプログラムに参加してきましたが、ここまで仲良くなったことはないと思います。そんな仲良くなった 20 人弱がこの先全員集まることは恐らくない。一人一人には会おうと思えば会えますが、全員でまた楽しく集まるのが出来ないことを考えると悲しかったです。泣いてる人も結構いました。

ですが、共に食し、共に寝、共に旅をし、夜な夜な語り合った友人達。そんな友人達が世界中にいることを本当に嬉しく思います。来年の夏、出来るだけ皆でコペンハーゲンに集まってヨーロッパを旅しよう、みたいな話に私たちもなっています。

②参加後の予定

IARU GSP を終えた後、日本に帰らずそのまま学部の交換留学プログラム(AIKOM)を使ってアメリカの東海岸で留学します。ただ、このプログラムに出来た友人達と話していて院進学は真剣に考え始めました。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

これが広がっちゃうと 2 回目の参加が危ぶまれるので言いたくないですけど笑、東大においては非常に貴重なプログラムだと思います。参加出来るなら是非。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):総合文化研究科修士2年

参加プログラム:IARU GSP UCB

派遣先大学:UCバークレー

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

<p>派遣先大学の概要 UCalはサンフランシスコ近郊にある歴史ある名門で、東アジア研究も盛んであります。また景色、天候もとてもいい町で、住みやすい留学先でありました。夏にも多くの学生がサマー・スクールに来て、活気あるキャンパスになります。</p>
<p>参加した動機 自分の見聞を広げるため。 テーマのアラブの春の興味あって、アメリカ流の研究を見学に行きました。</p>
<p>参加の準備 ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 東大の審査はとても優しい感じなので学生の皆さんには是非奮って参加してほしいです。推薦後のフォローがもっとあってほしいかもしれません。 ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) アメリカビザはなかなか時間がかかります。でも日本国民の勝手がまた違うかもしれません。 ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 健康診断はちょうどその前に大学がやってくれます。予防接種は特にしてませんでした。 ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 旅行保険はインターネットにあるし便利です。しかし万が一本当に何かありましたら、請求はタイムリーに。 ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)先生と教務は支持してくれました。試験はいくつか間に合いませんので事前調整が不可欠です。 ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 英語はToeflで107点でした。それでももちろんネイティブ組に勝てるわけがなく、苦労はします。 ⑦ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 現地にDAISOがありますのでかなりのものは調達できます。クレジットカード社会とはいえできないところも多々あります。現金は用意したほうがいいです。</p>
<p>学習・研究について ①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。 IAS150 ②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) アラブの春に関してメディアと社会運動の視点から解析し、その後自分で社会運動の事例研究のウェブサイトを立ち上げます。 ④学習・研究面でのアドバイス 社会運動の基礎を勉強します。サイト作成の技術もあったら楽ですが、ちゃんとフォローされます。 ⑤語学面での苦労・アドバイス等 プレゼンテーションもしますので覚悟が必要です。先生の話は割にわかりやすかったです。</p>
<p>生活について ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 寮は高くあまり得しないと思います。安全面の考慮があるかもしれませんが、外で探してみてもいいかもしれません。 ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 天候は寒いです。意外に気温が低くて厚い長袖が必要です。</p>

しかし晴れた日の昼間は相当気温があがります。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
いる間にも銃撃案発生。町を歩く時は複数行動が基本です。

太多了のでそちらも要注意です。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃 16 万円、授業料と家賃それぞれ 25 万ほどでした。

そちらでの出費は、寮で昼食・夕食済ませると 10 万円ほどになります。

⑤奨学学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学から 15 万円、IARU から同じぐらいもらいました。

大学が与えてくれましたが、正直円安で苦しかったのもう少し欲しかったかもしれません。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

キャンパスでプール・ジムが完備して、5ドルで2ヶ月使い放題です。ほぼ毎日泳いでました。

ほかの娯楽は控えめです。英語圏の方々はパーティーしか知りません。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

サポートはかなり慣れた感じです。

但し授業以外の活動はかなり組織されていません。最後に参加者ゼロということもありました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は素晴らしかった。食堂は太るがそこを運動でカバーしたいです。

が、失敗しました。ネット環境は一式揃っています。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

サマースクールとしてはレベルが高かったと思います。

いろんなエリート校の学生とも交友できましたし、楽しかったです。

世界は広くて、自分もこれからこのステージに立つでしょうと、思いました。

②参加後の予定

アメリカへの本格的な留学を計画しています。

東京大学の修士も頑張っ参ります。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

気楽に応募しましょう。

留学とは、そこにいるだけでも、意味があることであります。

日本人だけで固まるのは、やめてくださいな。

その他

① 備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

フェイスブックにあります。現在中国なので都合上アップできません。ご了承ください。